

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 大田花き
 コード番号 7555 URL <http://www.otakaki.co.jp>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 磯村 信夫
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役管理本部長 (氏名) 金子 和彦

TEL 03-3799-5571

四半期報告書提出予定日 平成27年2月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	19,106	△4.9	126	△30.4	163	△24.9	105	△20.5
26年3月期第3四半期	20,097	1.1	181	△9.2	218	△4.7	133	2.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	20.79	—
26年3月期第3四半期	26.14	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭
27年3月期第3四半期	7,772		4,710		60.6	925.59
26年3月期	6,835		4,666		68.3	916.81

(参考)自己資本 27年3月期第3四半期 4,710百万円 26年3月期 4,666百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
27年3月期	—	0.00	—		
27年3月期(予想)				12.00	12.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,680	△2.2	175	△24.4	218	△23.3	141	△20.3	27.70

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料4ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	5,500,000 株	26年3月期	5,500,000 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	410,539 株	26年3月期	410,539 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	5,089,461 株	26年3月期3Q	5,089,834 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第3四半期累計期間	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
5. 補足情報	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、4月からの消費税率引き上げにより、GDPの約6割を占める個人消費がますます低迷し、安倍首相は法律で定められている平成27年10月からの消費税率10%への引き上げを1年半先送りにする決意をしました。12月の衆議院議員選挙の後には、政治体制の安定化と円安なるも、ガソリン価格の下落があり、個人消費は高額なものと低価格なものが売れると言ったメリハリ消費となり、消費意欲は高まりました。

このような経済状況の下で当社は、10月11日ともに景気の波を大きく受けました。婚礼やお祝いの花は前年並みでありましたが、葬儀の花や自宅用の花は規模やサイズが小さくなったり、低価格のものが好まれるようになりました。しかし12月中旬、総選挙の後、消費マインドが戻りつつあったとき、例年のない寒波から花の供給が少なくなり、商況は反発しました。このような中、生産地は青果物流通での成功体験から、花き流通においても中央拠点市場への出荷の絞り込みを本格化してきました。当社は全国の拠点市場として、首都圏の中核市場として、十分に集散機能を発揮しました。

しかしながら、当第3四半期累計期間(平成26年4月～12月)の業績となりますと、売上高19,106,159千円(前年同四半期比4.9%減)となり、内訳をみますと、切花の取扱高17,535,191千円(前年同四半期比4.9%減)、鉢物の取扱高1,471,372千円(前年同四半期比5.7%減)、付帯業務収益99,595千円(前年同四半期比8.4%増)でした。利益につきましては、営業利益126,612千円(前年同四半期比30.4%減)、経常利益163,779千円(前年同四半期24.9%減)、四半期純利益105,801千円(前年同四半期20.5%減)となりました。

なお、当社は花き卸売事業単一セグメントであるため、セグメント別の記載は行なっておりません。

切花、鉢物に関する概況は次の通りです。

切花

売上金額	17,535,191千円(前年同期比4.9%減)
取扱数量	304,955千本(同1.8%減)

・4月～5月は前年に比べ特に入荷量が減少しました。これは冷え込みや暖房費の高騰による加温不足によります。しかし消費税率の引き上げにより小売店なども販売不振で、品薄でも相場は低迷しました。

・母の日には、定番の赤系カーネーションの引き合いが強まる反面、スプレータイプのカーネーションは受注が伸びませんでした。母の日後は、生産地が切り替わる時期で品質が安定しないこと、大きな需要がないことから厳しい販売となりました。特に地方では都内より消費が落ち込んでおり、よりいっそう厳しい状況でした。

・6月～7月にかけては、白菊が潤沢に入荷しましたが、需要に対して供給過剰となり価格は大きく崩れました。小菊も7月後半、予定より開花が早まり入荷増となり、価格は下落しました。開花が予定より前倒しになった結果、小菊は8月のお盆需要がピークを迎えるころに数量が不足しました。

・お盆の需要期を終えると、高冷産地を中心とした気温の低下により全国的に入荷量が減少し、品薄高となりました。そのため需要側では計画的な仕入れができない、欠品が増えるなどし、代替品の提案に努めました。

・9月に入っても、全国的な気温低下・日照不足から品薄傾向は続き、引き合いが強まりました。品薄高のまま、お彼岸の需要期を迎え、連休中の婚礼需要も加わって、和花・洋花とも単価高で推移しました。しかしお彼岸の需要期の後は、その反動から相場は下落しました。

・10月は菊類全般で開花が進み入荷増となり価格が下落しました。需要面では、2度の台風や消費税率の引き上げによる消費マインドの悪化が長引き、小売りは振るいませんでした。婚礼需要は前年並みで推移しましたが、葬儀は件数こそ例年並でしたが、1件ずつの規模が小さくなっていることで伸び悩みました。11月に入るとさらに切花全体の販売は低迷、婚礼需要においてもバラやダリアの品薄により販売機会を逃すなどし、前年を大きく下回る売上金額となりました。

・12月も品薄の状態から始まりましたが、相場には反映されず上中旬は低迷しました。しかし20日を過ぎると、年末年始に向け活発な取引が続きました。生産地による出荷先の絞り込みもあり、過去最大の入荷量となる日もありました。小菊は主力産地が定植時期に台風が襲来したことで、出荷量が減少し単価高となりました。正月商材として欠かせない松は夏場の長雨に加え、台風、連作障害の影響により、若松を中心に出荷減となりました。千両は台風により、主力産地が被害を受けたことから入荷量は減少しました。松・千両とも下位等級品は不足ぎみで、量販店などを中心に引き合いが強まりました。

・季節商材としては、開花が早まったストックが10月に大幅な入荷増となりました。これは生育時期に涼しかったことによります。これにより、12月の入荷量は減少し、年末の需要期には不足しました。葉ボタンは、各生産地とも生産を増やしており入荷増となりました。需要も比例して増えているため相場を崩すことなく12月の取引を終えることができました。フリージアやチューリップは前年を上回る入荷量となり価格は下落したものの、数量の増加がそれを上回り、販売金額を伸ばしました。

鉢物

売上金額	1,471,372千円(前年同期比 5.7%減)
取扱数量	6,555千鉢(同 1.3%減)

・洋ラン類の主力であるファレノは、前年に比べ人事異動や事務所移転、新規開設などの法人需要が回復し、堅調な動きでスタートしました。さらに9月には組閣によるお祝いの需要から大口取引が発生し、全体の仕入マインドが大きく上昇しました。需要は旺盛なものの、生産量は年々減少傾向にあるため品薄感が高まり、8月後半から9月にかけて高単価で推移しました。生産減少や集荷不足による入荷量の減少を補うまでには至らず、前年を下回る販売金額となる月が続きました。また、12月には衆議院議員選挙と組閣があり需要が期待されましたが、それほどでもなく相場も軟調でした。

・母の日商戦は、主力のカーネーションにおいて入荷量は前年並、販売金額は前年を下回る結果となりました。これは多くの産地が出荷調整をし、入荷が短い期間に集中してしまったため相場が大きく崩れたことによります。また、出荷の前段階で開花が進んでしまったことなどから、相対や注文の価格も下落しました。

・母の日以降、婚礼向けのアジサイの需要が高まりました。アジサイは、小売りにおいても新品种の動きが好調で、夏季までの見込み数量を販売することができました。秋から冬にかけては季節の鉢物としてシクラメン、ポインセチアの入荷が増えますが、北関東の生産地で前年1～2月に大雪が降ったため、特にポインセチアは生産量が減少しました。また、生育時期に日射量が少なかった影響で、高品質のものが減少しました。しかしかつてのようにギフトなどで売れないことから、数量が減少しても相場は上がらず低迷しました。そのような中でも、手頃な価格帯のものは量販店を中心に取引されました。

・花苗は9月早々から気温が下がり、秋の植栽に向けて動きが活発になりました。しかし例年の厳しい残暑から作付を10月以降にシフトした産地が多く、品薄単価高で推移しました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比較して936,638千円増加し7,772,197千円となりました。その主な内訳は売掛金の増加643,700千円、現金及び預金の増加266,624千円であります。

負債につきましては前事業年度末と比較して891,909千円増加し3,061,423千円となりました。その主な内訳は受託販売未払金の増加889,235千円であります。純資産につきましては前事業年度末と比較して44,728千円増加し4,710,773千円となりました。これは剰余金の配当により61,073千円減少し、四半期純利益の計上により105,801千円増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末より866,624千円増加し、2,827,011千円となっております。

営業活動の結果増加した資金は、447,405千円(前年同四半期は147,580千円の増加)となりました。主な増加要因は、仕入債務の増加906,768千円、税引前四半期純利益163,779千円、減価償却費125,873千円によるものです。また、主な減少要因は、売上債権の増加635,308千円、法人税等の支払額137,581千円によるものです。

投資活動の結果増加した資金は、494,783千円(前年同四半期は97,503千円の減少)となりました。主な増加要因は、定期預金の払戻による収入600,000千円、貸付金の回収による収入151,455千円によるものです。また、主な減少要因は、関係会社貸付けによる支出138,500千円、有形固定資産の取得による支出58,067千円によるものです。

財務活動の結果減少した資金は、75,564千円(前年同四半期は75,708千円の減少)となりました。この要因は、配当金の支払額60,264千円及びリース債務の返済による支出15,300千円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年8月8日に公表しました平成27年3月期の通期の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては本日(平成27年2月6日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,560,386	2,827,011
売掛金	1,781,764	2,425,464
その他	104,694	139,325
貸倒引当金	△8,011	△14,243
流動資産合計	4,438,834	5,377,559
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	129,961	121,098
工具、器具及び備品(純額)	228,842	253,997
その他(純額)	155,321	150,096
有形固定資産合計	514,125	525,192
無形固定資産	172,781	140,578
投資その他の資産		
関係会社株式	603,735	633,735
長期前払費用	123,846	107,881
その他	1,048,868	1,047,659
貸倒引当金	△29,033	△22,810
投資損失引当金	△37,600	△37,600
投資その他の資産合計	1,709,817	1,728,866
固定資産合計	2,396,724	2,394,638
資産合計	6,835,559	7,772,197
負債の部		
流動負債		
受託販売未払金	1,272,489	2,161,724
買掛金	27,409	44,892
未払法人税等	81,921	225
賞与引当金	22,134	12,932
その他	174,572	250,523
流動負債合計	1,578,526	2,470,298
固定負債		
退職給付引当金	240,137	266,139
その他	350,849	324,986
固定負債合計	590,987	591,125
負債合計	2,169,514	3,061,423

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	551,500	551,500
資本剰余金	402,866	402,866
利益剰余金	4,060,703	4,105,431
自己株式	△349,024	△349,024
株主資本合計	4,666,045	4,710,773
純資産合計	4,666,045	4,710,773
負債純資産合計	6,835,559	7,772,197

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	20,097,978	19,106,159
売上原価	18,118,297	17,218,216
売上総利益	1,979,680	1,887,942
販売費及び一般管理費	1,797,740	1,761,330
営業利益	181,940	126,612
営業外収益		
受取利息	4,153	3,842
受取配当金	13,000	19,500
その他	19,172	14,037
営業外収益合計	36,325	37,380
営業外費用		
固定資産除却損	18	138
保険解約損	155	75
営業外費用合計	173	213
経常利益	218,092	163,779
税引前四半期純利益	218,092	163,779
法人税等	85,056	57,977
四半期純利益	133,036	105,801

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	218,092	163,779
減価償却費	121,290	125,873
賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,242	△9,202
退職給付引当金の増減額(△は減少)	23,359	26,001
貸倒引当金の増減額(△は減少)	24,906	9
受取利息及び受取配当金	△17,153	△23,342
有形固定資産除却損	18	138
売上債権の増減額(△は増加)	△493,324	△635,308
仕入債務の増減額(△は減少)	348,689	906,768
未収入金の増減額(△は増加)	△6,356	3,557
未払費用の増減額(△は減少)	△911	9,960
未払金の増減額(△は減少)	11,902	△182
未払消費税等の増減額(△は減少)	3,160	36,934
その他	△1,713	△43,515
小計	219,719	561,471
利息及び配当金の受取額	17,625	23,515
法人税等の支払額	△89,764	△137,581
営業活動によるキャッシュ・フロー	147,580	447,405
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,000,000	—
定期預金の払戻による収入	1,100,000	600,000
有形固定資産の取得による支出	△14,392	△58,067
無形固定資産の取得による支出	△4,279	△10,105
投資有価証券の取得による支出	△120,000	—
関係会社株式の取得による支出	—	△30,000
貸付けによる支出	△65,000	△20,000
貸付金の回収による収入	109,668	151,455
関係会社貸付けによる支出	△103,500	△138,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△97,503	494,783
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△702	—
配当金の支払額	△60,942	△60,264
リース債務の返済による支出	△14,063	△15,300
財務活動によるキャッシュ・フロー	△75,708	△75,564
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△25,631	866,624
現金及び現金同等物の期首残高	2,348,905	1,960,386
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,323,274	2,827,011

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、花き卸売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

5. 補足情報

売上高明細

	前第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)		当第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)		前年同期比	
	数量 (千本)	金額 (千円)	数量 (千本)	金額 (千円)	数量	金額
キク類	77,611	3,828,508	74,364	3,527,624	95.8%	92.1%
洋ラン・バラ・カーネーション	71,345	4,618,696	71,316	4,430,673	100.0%	95.9%
球根類	28,945	2,806,188	28,566	2,649,520	98.7%	94.4%
草花類	89,108	4,768,588	89,233	4,637,818	100.1%	97.3%
枝物・葉物	43,476	2,423,760	41,473	2,289,553	95.4%	94.5%
切花 小計	310,487	18,445,742	304,955	17,535,191	98.2%	95.1%
鉢物	6,643	1,560,392	6,555	1,471,372	98.7%	94.3%
花き 合計	317,131	20,006,135	311,510	19,006,563	98.2%	95.0%
付帯業務料	—	91,842	—	99,595	—	108.4%
売上高 合計	—	20,097,978	—	19,106,159	—	95.1%

(注) 1 上記の金額には、消費税が含まれておりません。

2 上記の数量は、本数で集計しておりますが、鉢物のみ鉢数で集計しております。